

保護者に伝えたい

「親から子へ かかわりの糸を結ぶ7つの言葉」

第3回(最終回)

よりよい学級経営を目指す私たち教師は、子どもに対する日々のサポーター。

そして時には子育てに悩む保護者のサポーターでありたいものです。

親と子の間に「かかわりの糸」がしっかりと結ばれたならば、

日々の子育ては、きっと楽しくなり、笑顔あふれるものになっていきます。

保護者が元気になれば、きっと子どもも元気になります。

保護者に伝えたい!

7つの言葉(7 Selections)

出版記念講演会の参加者の声を踏まえて、
7つの言葉をセレクトしました。

..... Selection 1

今、見ている景色を楽しむ(言葉6)

..... Selection 2

考え次第で悩みは消える(言葉8)

..... Selection 3

笑うから幸せになる(言葉21)

..... Selection 4

子どもが持っている「グローブ」に
「ボール」を投げる(言葉18)

..... ★ Selection 5 ★

「型」の中に見いだす違いが「個性」になる(言葉10)

..... ★ Selection 6 ★

倒れずにいられた理由を考えてみる(言葉20)

..... ★ Selection 7 ★

「私」の気持ちを伝える(言葉5)

★:今回取り上げた言葉



そやま かずひこ
曾山 和彦

名城大学 教授 教職センター長

群馬県桐生市出身。東京学芸大学卒業、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。博士(社会福祉学)。

東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事、名城大学准教授を経て、現職。学校心理士。ガイダンスカウンセラー。上級教育カウンセラー。学校におけるカウンセリングを考える会代表。

著書に「時々、「オニの心」が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキルトレーニング」「時々、「オニの心」が出る子どもにアプローチ2 気になる子に伝わる言葉の「番付表」(明治図書)、子どもに学んだ「王道」ステップ ワン・ツースリーI「教室」でできる特別支援教育・II「教室」でできる関係づくり」「親から子へ かかわりの糸を結ぶ21の言葉」(文溪堂)、編著書に「気になる子への支援のワザ」(教育開発研究所)、「特別支援教育に生かせるカウンセリング」(ぎょうせい)ほか多数。

私は、このhitotsume誌面で、自分自身の言葉を皆さんに伝える機会を与えていただいていることに心から感謝しています。そして、今の私があるのは、学校現場で多くの子どもたち、保護者の方々に出会い、教師として成長させてもらったからです。

皆さんが今出会っている、あるいは、これから出会う○○君、○○ちゃん、○○君のお父さん、○○ちゃんのお母さんが、笑顔いっぱい家庭・学校生活を送ることができるよう、私が学んだことの全てを、これからも言葉にして伝えて続けていきます。

今回は、「保護者に伝えたい! 7つの言葉(7 Selections)」の最終回として、「Selection 5-6-7」を紹介するとともに、本シリーズをまとめます。

Selection 5
「型」の中に見いだす
違いが「個性」になる
(言葉10)

「個性…その人らしさ」とは魅力的な言葉です。その魅力に、

私たち大人は少し惹かれすぎて
いる面があるのかもしれない。
私は、「型」の中に見いだす違い
が『個性』になる」(※1)という言
葉に触れたとき、心の底から納
得しました。それは、私が卓球、
合気道という「スポーツ、武道」の
世界に慣れ親しんできたことに
関連すると思います。最初から、
いくら私が「自分らしい」サーブ
や技を練り出したいと思っても、
基礎基本が身につけていなか
れば、それはできるものではありません。
コーチからサーブの「型」
を、師範から技の「型」を学び、そ
れを繰り返し修練することで、
「型」が自分の中になじむよう
になります。そうなってはじめて、
その「型」をベースに私らしいサー
ブや技が出せるようになる：
確かにその通りであったと若い
頃を懐かしんでいます。「技、テク
ニック」を身につけるには、まずは
「型」の習得が必要になります。
大リーグのイチロー選手の「イチ
ロー打法」、卓球の福原選手の「王
子サーブ」等々、個性的で、魅力
たっぷりの技を支えているのは、

膨大な練習量によって身についた
「型」です。

人とスムーズにかかわる上での
技術コツを「ソーシャルスキル」と
言います。代表的なスキルとして、
「挨拶する、傾いて話を聴く」等が
あります。私たち大人は、子ども
の頃から親や地域の人たちから
様々な教えられ、褒められ、叱ら



れ、このようなスキルを身につけて
きたと言えるでしょう。挨拶なら
ば、「相手を見る、おはようござい
ますと言う・お辞儀をする」とい
う型、傾きならば、「相手を見て、
静かに、ほどよく首を縦に振る」
という型が徐々に身につきます。
そして、その型をベースにして、元
気な子ならば「元気な挨拶」、お

となしい子ならば「しゅっしゅ」とし
た挨拶」というように、その子ら
しさもまた徐々に見えるようにな
ります。「型」の中に見いだす
違いが『個性』になる」：どうで
しょう？ 私たち大人は、今こそ、
「型の教育」を見つめ直しても
よいのではないのでしょうか。

Section 6
倒れずにいられた理由
を考えてみる(言葉20)

心理療法の一つ、「ブリーフセラ
ピー」の技法に、「サバイバル(生
き残り)クエスチョン」というもの
があります。子育てを頑張りな
がらも悩みが尽きないこともある
でしょう。そうしたとき、「もう、
ダメだ」と思いながらもなんとか
倒れずに立っている自分がいると
しましょう。その際には、「大変
なのに生き残れたのはなぜ?」
倒れてもおかしくないのに立って
いられたのはなぜ?」と自分に問
いかけてみることをお勧めしま
す。なぜなら、このクエスチョン
を用いた自問自答に、私自身が今
までの人生でどれほど救われた



かわからないからです。例えば、仕事の面で失敗したり、職場の同僚とトラブルを起こしたりしたとき、「いつも応援してくれる家族」「学びを与え続けてくれる恩師」「何もかも忘れて没頭できる趣味」等々の存在に気づくことで、明日への一步を踏み出し直せることが何度もありました。この「家族」「趣味」等を「リソース(資源財産)」と言います。私たちは、どんなときでも、支えてくれる何かがあり、誰かがいます。また、私たちは、いつでも、どこでも、

「リソース」に囲まれています。どうでしょうか？このように考えることで、私たちは、「よし、子どもと一緒に頑張るぞ!」という明日への勇気を得られるのではないのでしょうか。

Selection 7
「私」の気持ちを伝える
(言葉5)

私たちは、子どもへの言葉かけを振り返ってみると、「えらいね、すごいね」等の褒め言葉、「ダメでしょ、きちんとやりなさい」等の

注意・指示言葉が多いことに気づくのではないのでしょうか。これらの言葉かけは、「親業」理論(※2)によれば、文脈に「あなた(ユー)」が入ることから、プラスやマイナスの「あなた(ユー)メッセージ」となっています。このメッセージは、およそ小学校中学年頃までの子どもに対して効果を発揮しますが、それ以降の年齢の子どもには、「いつまで子ども扱いなの? 慰めのつもり?」「うるさいなあ、むかつく」等の反応を生みやすく、関係づくりにおい

てはむしろ逆効果になる場合が多くあります。実際、私が中学生の担任だった頃を思い出すと、「私がかける言葉はあなたメッセージばかりだったから、良い関係が築けない生徒がいたんだなあ」と、当時の「失敗」の原因に気づかされます(A君、Bさん、Gメン)。では、私たち大人は、日々、



どのような言葉を子どもにかけるとよいのでしょうか。それは、文脈に「私(アイ)」が入る、プラスやマイナスの「私(アイ)メッセージ」です。私自身、親・教師として、様々な年齢段階の子どもとのかかわりを振り返り、「最強・最高・最『幸』!」と確信している言葉のかけ方です。例えば、子どもの良い言動に触れたなら「ありがとう、嬉しい、助かる」、逆に、良くない言動に触れたなら「困る、悲しい、残念」…等々、私たち

自身の気持ち伝えてみる。すると、子どもたちは、私たちの気持ちに「心のアンテナ」で受信し、良い言動を続けたり、良くない言動を修正していく…。どの年齢段階の子どもにもかけられる「私(アイ)メッセージ」を是非お試しください。きつと、本誌25号にて紹介した「高学年の子どもには本当に効果があると感じています」という講演会参加者の声が、皆さんの心に「ストン」と落ちていくことでしょう。ただし、このメッセージも万能ではありません。相手の気持ちを察することが苦手な子どもに対しては効果が薄れます。その際には、「笑顔で微笑む、困った顔をしてみせる」等、目に見える働きかけを併用することも留意するとよいでしょう。

子どもがより良く育つには、「褒めること」「叱ること」の両方が欠かせません。どうでしょうか？ そのための「ワザ」のひとつとして、私の気持ちを伝える「私(アイ)メッセージ」を身につけるのはいかがでしょうか。

連載まとめにかえて

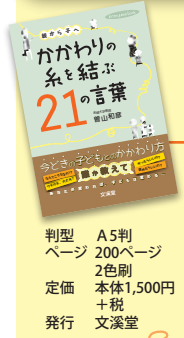
「hitoyume」読者の方から、本シリーズに関する嬉しい声をたくさん届けていただきました。その一部を以下に紹介します。

- 素敵な言葉だと思っ
- 7つの言葉が心に沁み
- 是非PTAの活動で紹介したい：等々

今回をもちまして、「保護者に伝えたい『親から子へ かかわりの糸を結ぶ7つの言葉』シリーズを終了します。短い誌面であったため、私の思いを十分に伝え切れなかったかという不安があります。私の言葉の足りない点は、是非、拙著「親から子へ かかわりの糸を結ぶ21の言葉」をお読みいただくと補っていただけかもしれません。

また、本コーナー「学級経営ここが知りたい」を2009年より10年間担当させていただいたことに心より感謝申し上げます。

叱ったらいいの？ 褒めたらいいの？
今どきの子どものかかわり方がわかる



親から子へ
かかわりの糸を結ぶ21の言葉

名城大学 教授 曾山和彦 著

「子どもと、どう接したらいいのかわからない」
「今どきの子どもの何を考えているのかわからない」
こんな子どもとどう接していいのかわからない親御さんに、
曾山先生が、カウンセリング、心理学、
特別支援教育の観点から、考え方やノウハウを伝授。
伝えたい「21の言葉」がぎゅっと詰まった1冊。



どの家庭でも起こりうる事例をマンガで紹介。
今どきの子どものつきあい方を「21の言葉」を介して解決へと導きます。

正しいことを言うときは少しひかえめに言う 言葉はスリムなほど伝わる
今、見ている景色を楽しむ 関係づくりの第一歩は相手への関心から
子どもが持っている「グローブ」に「ボール」を投げる

曾山和彦 ● ホームページ・メールアドレスなど

- HP ● KAZU・和・POCKET
<http://www.pat.hi-ho.ne.jp/soyama/>
e-mail ● kazu3623@hotmail.com
Blog ● Today's Pocket
<http://kazuencounter.blog.fc2.com/>



ます。本冊子「hitoyume」の「先生の毎日を応援する」というコンセプトに惹かれ、連載を続けてきた私ですが、毎回届く読者の方々からの温かなメッセージに、むしろ私の方こそ「応援していただいた！」という思いでいっぱい。私はこれからも皆さんを「応援する」研究・実践を続けていきます。そして、各地の講演会

研修会でお会いできることを楽しみにしています。その際には、是非お声かけください！お元気で！10年間ありがとうございました。

〈参考・引用文献〉
●※1 松平洋史子2015「二流の男になる松平家の教え」日本文芸社
●※2 T・ゴードン1977「親業」サイマル出版会